

NPO法人社会還元センター グループわ 会報

情報ぎゃらりー

第39号

情報ギャラリー第39号

発行日 2007年7月20日

編集 グループわ 広報部

発行者 郷 肥三

発行元 NPO法人社会還元センター
グループわ

TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830

Eメール group_wa@wa-net.jp

ホームページ http://www.wa-net.jp

全員参加で式典を盛り上げよう

NPO法人グループわ 設立10周年記念事業

日時 平成19年9月1日2日 場所 こうべシルバーカレッジ・しあわせの村

なお記念式の案内状を同封しています。皆さんの参加をお待ちしています。

わ 挙げて準備を進めてきた10周年記念事業もあと1ヶ月余りで本番を迎えます。事業推進の主役、実行委員長並びに各部会代表の方々に記念事業に対する熱い思いや抱負を語って頂きました。総務広報部会 加藤 勇治

記念事業実行委員長

郷 肥三

わ の設立から10年の年輪を重ねてきましたが、諸先輩方はじめ、数多くの方のご尽力のお陰で今や1000名を超えるNPO法人に成長し、市内有数のボランティア団体として注目される存在となりました。10周年記念事業の実施で、一人でも多くの方にわのあゆみと現状について理解を深めていただき、今後のあり方を考えるきっかけとなることを願っています。

10周年記念事業を単なる“お祭り”に終わらず、わの活性化の弾みとすることを切に望みます。

記念イベント部会

中沢 保夫

今回の記念イベントは“格調の高い全員参加型の催し”とする基本方針にこだわった部会委員の苦心の企画です。第1部「記念式典」ではセレモニーのあと「松本薫平氏テノール記念演奏」が見所です。

第2部パフォーマンスでは、わ登録の全ボランティアグループがプラカードを先頭に、順次ステージをパレードし、まさに全員参加型のパフォーマンスでわの活動の全容を見る趣向です。

第3部は卒業生を中心とした相互交流会です。カレッジ内の教室を7つのコースに振り分けて、コース別に1期から11期までの卒業生が会員、非会員を問わず自由に交流する催しです。これを契機としてわの活性化に弾みが付けばと願っています。

地域交流・体験事業部会

西隈 勝利

地域交流、体験イベントを「わいストリート」と銘打ち、9月2日(日)にしあわせの村中央緑道、芝生広場等で開催します。今回の目的は地域の皆さんとの交流を一層深める。普段あまり交流のない各

グループわ ボランティア活動標語
最優秀作
とどけたいあなたのもとへ わの愛を
(中沢 千枝子作)
優秀作
ボランティア やってよかったあの笑顔
(加藤 勇治作)
優秀作
経験と知識が“わ”となり 他のために
(飯井 冴子作)

グループが、同時にイベントを行う事により理解と親睦をはかることにあります。このため多くのグループの参加を呼びかけ、11グループが参加する事になりました。

今回の企画は福祉振興協会との共催となり、当初の構想が実現しました。9月2日は皆さんに楽しんで頂けるイベントとなる様、準備を進めてまいります。

記念事業記念誌部会

朝日 照夫

10周年記念誌編纂の任を課せられたとき真っ先に浮かんだのは2003年3月に発行されたグループ

“わ”5年の歩みだった。約70ページのこの小史は情報ぎゃらりー初代の編集長だった金川章三さん(国際1)と2代目の横田穰さん(生環2)3、4期の委員長の中島洋吉さん(生環3)の3人が編まれたもので、私は最終段階でお手伝いする機会を与えられた。5年ずらして同じものを...と考えたが、あの原稿や情報は横田さんらがこつこつと長年かかって集めたもので、とても真似のできる作業ではないと気付いた。

改めて同誌を眺めると設立に奔走された方々の大部分が現在も活躍されていることが分かり、設立時の苦心やら初心を直接書いて頂けないかと大体の方向付けが決まった。そのための多くの方々に寄稿をお願いする結果になったが、10年後に20周年を迎える人たちへの伝言になれば、と思っている。

展示・パフォーマンス部会

裏地 彦允

わのボランティアグループが一堂に会することは画期的なことです。企画を担当する私は、ボランティアグループが多い事は知っていたが、あらためてグループが72もある事に驚いた。しかもその活動分野は多岐に亘り“わ”のこの10年間の活動を辿ることの重さを感じています。このパフォーマンスを通じて各グループの活動を一人でも多くの方々に知って頂きたいと願っていますが、全員参加型だけに1グループの持ち時間は1分間で、この時間内にいかにアピールしてもらえませんが、我々担当者の大きな課題である。プラカードを持ってのパレード行進は“明るく、楽しく、元気よく”をモットーに趣向を凝らして行えるような企画を立てたいと考えています。現在、多くの方々の参加が見込まれ当日のパフォーマンスを期待して頂けるのではないかと考えています。